



Title	Gallia 56号 会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2017, 56, p. 116-126
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/69838
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

会員研究活動報告

(2016年1月1日～12月31日)

アヴォカ, エリック

論文

・ Du théâtre à la théâtralité : la scène parlementaire et la pluralité des mondes dramaturgiques, (*Dramaturgies du conseil et de la délibération*, Actes du colloque organisé à l'Université de Rouen en mars 2015, publiés par Xavier Bonnier et Ariane Ferry. Publications numériques du CÉRÉdI, "Actes de colloques et journées d'étude (ISSN 1775-4054)", n° 16)

・ Les mazarinades, une préface à la Révolution ? (*Histoire et civilisation du livre, Revue internationale*, XII, Actes du colloque *Mazarinades, nouvelles approches* Genève, Droz, p. 323-339)

報告

・ Le théâtre de la Révolution française : entre esthétique et politique, une dramaturgie au cœur de l'événement (*Cahier*, N° 17, 日本フランス語フランス文学会, p. 2-5, 3月)

口頭発表

・ Parole dévaluée, inflation verbale : la rhétorique saisie par l'économie (colloque «Le retour du comparant», organisé par Xavier Bonnier et Ariane Ferry, Université de Rouen, juin)

・ Le parcours des hommes d'argent du dix-huitième siècle à la Révolution française, vu du théâtre : une comédie (in) humaine (大阪大学フランス語フランス文学会第79回研究会, 大阪大学, 10月1日)

・ République, démocratie, etc. : la question des régimes politiques et ses échos dans le corpus du Projet Mazarinades (colloque «L'exploration des Mazarinades», sous la direction de Tadako Ichimaru et Patrick Rebollar, Université de Tokyo, novembre)

足立 和彦

論文

・ *Gil Blas* et le conte pour le journal : Armand Silvestre et Théodore de Banville (*Gallia*, n° 55, pp. 55-64, 3月)

口頭発表

・ 『ジル・ブラース』の短編小説家たち：アルマン・シルヴェストルとテオドール・ド・パンヴィル（関西マラルメ研究会第22回研究発表会, 大阪大学, 3月18日）

・ モーパッサンと戦争：復讐の意味するもの（自然主義研究会, 慶應義塾大学, 5月27日）

書評

・ ダニエル・コンペール『大衆小説』宮川朗子訳（『Cahier』第17号, 日本フランス語フランス文学会, pp. 29-31, 3月）

安達 孝信

論文

・ ユイスマンズの散文詩集『葉味箱』における絵画的描写 (*Gallia*, n° 55, pp. 65-74, 3月)

- ・ユイスマンスの自然主義小説における理想的画家像の変遷 — 『ヴァータル姉妹』から『所帯』へ — (『関西フランス語フランス文学』, 第22号, pp. 39-49, 5月)

井上 直子

- 論文
- ・ヴァレリーとパスカル — 『パンセ』の三つの句が言わんとしたこと — (『大阪教育大学紀要』, 第一部門, 第64巻第2号, pp. 1 - 20, 2月)
 - ・ヴァレリーと天空の星 (*Gallia*, N° 55, pp. 105 - 114, 3月)
- 書評
- ・『三声書簡 1888 - 1890』(水声社), ジッド, ルイス, ヴァレリー著, 松田浩則他訳 (産経新聞, 7月17日)

井元 秀剛

- 論文
- ・条件文におけるスペース構成 (大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化研究』42, pp. 3-23, 3月)
 - ・日本語条件文とバックシフト (大阪大学大学院言語文化研究科『言語文化共同研究プロジェクト2015: 時空と認知の言語学 V』, pp. 1-10, 5月)

岩根 久

- 翻訳
- ・ピエール・ド・ロンサル「哲学の讃歌」(『フランス・ルネサンス文学集 2 笑いと涙と』(宮下志朗/伊藤進/平野隆文編訳), 白水社, pp. 461-474, 3月)
 - ・ギヨーム・サルリュスト・デュ・バルタス『聖週間、あるいは天地創造』(抄)(『フランス・ルネサンス文学集 2 笑いと涙と』(宮下志朗/伊藤進/平野隆文編訳), 白水社, pp. 493-518, 3月)

口頭発表

- ・語彙計量的手法を日常のテキスト分析に (日本ロンサル学会2016年度大会, 同志社びわこリトリートセンター, 8月12日)
- ・反ロンサルパンフレットの計量的特徴を探索 (統計数理研究所言語系共同研究グループ・2016年度夏季合同研究発表会, 神戸大学, 8月30日)

岩村 和泉

口頭発表

- ・バルザックにおける人物の社会化モデルの変遷 (大阪大学フランス語フランス文学会第79回研究会, 10月1日)
- ・『現代詩の裏面』における情報—真と偽の間— (関西バルザック研究会, 大手前大学, 12月25日)

内田 能嗣

共監修

- ・『歴史のなかのブロンテ』(大阪教育図書, 12月25日)

小川 美登里

- 論文
- ・ Bourgeois de signes, (共著者 Kazuhiko Suzuki, *NU(e)*, N° 59, pp. 171-179.)
 - ・ Sous le signe de Méduse. Le conte chez Pascal Quignard (*Elseneur*, N° 30, pp. 27-38)
- 共著
- ・ Mireille Calle-Gruber et al., *Dictionnaire sauvage ; Pascal Quignard, Hermann*, 2016 (Duras, *La Haine de la musique*, Hiroshima, Kenkô, *Vie secrète*, Zeami, Tanizaki, Piano, Lumière cendrée, *Leçon de solfège et de piano* ほか 14 項目担当)
- 翻訳
- ・ バスカル・キニャール著『いにしへの光』(水声社、「バスカル・キニャール・コレクション<最後の王国 2 >」, 328 頁, 解説「千年の友」)
- 口頭発表
- ・ マルグリット・デュラス没後 20 周年: 21 世紀におけるデュラス (日本フランス語フランス文学会ワークショップ, 学習院大学, 5 月 29 日)
- 主催
- ・ 国際シンポジウム «L'état d'exception après Fukushima : société, politique», poétique, 日仏学館, 4 月 9 日)

柏木 加代子

- 論文
- ・ トロンコワ・コレクションの芝居絵を読む (『江戸文化が甦る—トロンコワ・コレクションで読み解く琳派から溝口健二まで—』, 思文閣出版, pp. 80-98 (和文), pp. 272-287 (仏文)。
- 解説
- ・ 『ギュスターヴ・フロベール 心の城』(柏木加代子訳, 大阪大学出版会, 2015 年)「訳者解説」インターネット版 (*Bulletin Flaubert*, N° 175, le 30 mars 2016, <http://flaubert.univ-rouen.fr/article.php?id=44>, 橋本知子書評 ITEM, le 16 mars 2016, <https://flaubert.revues.org/381>)
- エッセイ
- ・ En hommage à Agnès Disson (*Gallia*, N° 55, pp. 137-138, 3 月)

柏木 隆雄

- 単著
- ・ トロンコワ・コレクションの肉筆絵画調査報告、*Catalogue de la collection Tronquois (peintures) conservée à l'Ecole nationale supérieure des Beaux-Arts de Paris, à la Bibliothèque des Arts Décoratifs et au Musée Guimet* (平成 26 年度～平成 27 年度科学研究費補助金 (挑発的萌芽研究) 平成 27 年度分研究成果報告書 (研究課題番号: 26580062), 90 頁, 3 月 31 日)
- 共編著
- ・ 大学で学ぶとは (石上浩美・中島由香編『キャリア・プランニング』, ナカニシヤ出版, pp.1-8, 3 月 31 日)
 - ・ グローカル現象としての三好達治 (北山研二編『文化表象としてのグローカル研究』, 第 6 章, 成城大学グローカル研究センター, pp. 115-139, 3 月 20 日)

エッセイ・
報告

- ・(1)「まえがき」, (2)「フェリシアン・シャレー『図版入り日本』とエマニュエル・トロンコワ」, (3) «*Le Japon illustré de Félician Challaye et Emmanuel Tronquois*» (大手前大学文化交流研究叢書12『江戸文化が甦る—トロンコワ・コレクションで読み解く琳派から溝口健二まで—』, 石毛弓, 小林宣之と共編, 思文閣出版, pp. i-v, pp. 101-122 および pp.291-310, 3月31日)
- ・上方の芸, 江戸の芸 (『集う—衣・食・住—』, 平成25年度 大手前大学公開講座録, pp. 89-118, 9月1日)
- ・Grand merci à Madame Disson (*Gallia*, N° 55, 2016.3.5, pp.138-140, 3月5日)
- ・2015年度の大手前大学院 (『大手前比較文化学会会報』第17号, pp. 1-2, 3月31日)
- ・4年間を振り返って (*AMAMUS OTEMAE*, N°.5, 大手前大学, p.1, 6月1日)
- ・音との世界 (『ゆうばえ 過ぎゆく時のはざまに』, 創刊号, 鳴滝書房, pp.13-14, 9月)
- ・三重同工会の平成28年 (『赤壁』第90号, 三重同工会, pp. 2-3, 9月10日)
- ・小林君夫先生を悼む (『赤壁』第90号, 三重同工会, pp. 45, 9月10日)
- ・「どうこういせ」に寄せて (『どうこういせ』第32号, 三重同工会伊勢支部, pp. 2-3, 12月10日)

口頭発表・
講演

- ・19世紀の小説王、バルザックの面白さ (大手前大学通信教育部インターネット無料講義 <http://dec.otemae.ac.jp/pickup/detail.php?id=44>, 1月27日)
- ・大学で学ぶとは (大手前大学 教員の学びプロジェクト研究会主催「大学での学びとは」講演, 大手前大学セル・フォーラム, 3月12日)
- ・甦る江戸文化—明治期の日本紹介本『絵入り日本』とフランス人江戸絵画コレクター— (三重日仏協会, 放送大学三重学習センター共催, 三重県総合文化センター文化会館, 4月10日)
- ・三好達治とフランス詩の周辺 (大阪大学文学研究科教官研究フォーラム, 大阪大学文学研究科, 11月10日)
- ・名作の中のフランス料理 (津市「ラ・フルール」, 12月3日)

粕谷 祐己

記事

- ・『成功』に終わった、パリでの『ライの30年』記念コンサート (『ミュージック・マガジン』3月号, p.194)

口頭発表

- ・英語⇄フランス語⇄ロマンス語⇄クレオール諸語：間言語理解 (関西フランス語教育研究会, 上田安子服飾専門学校 (大阪), 3月27日)

- ・世界文学はどこにあるか — 地方国立大での実践から (第4回 世界文学・語圏横断ネットワーク研究集会, 第三セッション「いま世界 (の) 文学をどう読むか? — 研究・教育・出版」パネラー, 東京大学本郷キャンパス法文2号館, 4月10日)
 - ・スタンダールで始める世界文学史 (日本スタンダール研究会, キャンパスプラザ京都, 12月17日)
- 講演
 - ・ベルギー在住移民層の音楽 (北陸ベルギー友好協会 11月例会, 石川四高記念館 (金沢), 11月22日)
- 企画・運営等
 - ・日本フランス語教育学会 2016年度秋季大会 (実行委員長、講演会司会) (金沢大学角間キャンパス総合教育講義棟, 10月15日-16日)

- 加藤 靖恵
 - 論文
 - ・Proust et les églises normandes (Lisieux et Thaon) (*Bulletin Marcel Proust*, N° 66, pp. 41-55, 12月)
 - ・アミアンの黄金の聖母とサンザシの生垣 — 『失われた時を求めて』ジルベルト登場場面の生成 (*Stella : études de langue et littérature françaises*, N° 35, pp. 101-118, 12月)
 - 講演
 - ・Proust et les cathédrales : les plantes sculptées à Amiens et à Lisieux (Le Centre de recherches proustiennes, セミナー, パリ=ソルボンヌ大学, 4月5日)

- 金崎 春幸
 - 口頭発表
 - ・『聖アントワーンの誘惑』におけるアドニス神話 (フローベール研究会, 学習院大学, 5月)

- 川上 紘史
 - 論文
 - ・パスカルとアルノーの幼児洗礼観 — 習慣と教育を中心に — (*Gallia*, n° 54, pp. 15-24, 3月)
 - ・アルノー『頻繁なる聖体拝領』に見る行為と意志の関係 (『待兼山論叢』, n° 50, pp. 85-117, 12月)
 - 口頭発表
 - ・パスカルとアルノーの好奇心観比較 (日本フランス語フランス文学会 関西支部大会, 大阪大学, 11月26日)

- 北村 卓
 - 編著
 - ・『表象と文化 XIII』 (大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト 2015」, 92頁, 5月)
 - 共著
 - ・『実用フランス語技能検定試験 2016年度版 4級 仏検公式ガイドブック』 (フランス語教育振興協会編, 第2部担当, pp. 119-196, 4月)

- 論文
- ・「グローバル現象としてのボードレール—文学からマンガまで」(成城大学グローバル研究センター, 北山研二編『文化表象のグローバル研究』, pp. 139-150, 3月)
 - ・「ボードレール・ハーン・谷崎—理想の女性をめぐる」(富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会『ヘルン研究』創刊号, pp. 130-135, 3月)
 - ・「ラフカディオ・ハーンとボードレール」(大阪大学言語文化研究所「言語文化共同プロジェクト2015」『表象と文化XIII』, pp. 33-42, 5月)
- 口頭発表
- ・「ボードレール・ハーン・谷崎—理想の女性をめぐる」(富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会主催、第1回国際シンポジウム「ラフカディオ・ハーン研究への新たな視点」, 2月13日)
- 講演
- ・「宝塚歌劇の海外公演をめぐる—戦前から現代まで」(大手前学園創立70周年・大手前大学50周年事業, 大手前大学交流文化研究所)(6月25日)
- 講義
- ・「メディア装置としての宝塚歌劇」(上智大学連続講義「舞台技術の世界」第11回, 6月20日)
- 講演企画・通訳
- ・Dominique Chateau, *Charles Baudelaire et l'art moderne*, (科学研究費助成事業: 北村卓「日本におけるボードレール受容の総合的研究」(基盤研究C 課題番号15K02456) 共催: 日本フランス語フランス文学会関西支部, 11月3日)
- 小坂 美樹
- 論文
- ・ジッド作品における登場人物たちの日記—「物」としての日記について(『ステラ』第35号, 九州大学フランス語フランス文学研究会, pp. 315-326, 12月)
- 口頭発表
- ・アンドレ・ジッドの日記体小説—「物」としての日記について(大阪大学フランス語フランス文学会第79回研究会, 大阪大学文学部, 10月1日)
- 小林 宣之
- 共編著
- ・『江戸文化が甦る—トロンコワ・コレクションで読み解く琳派から溝口健二まで—』(石毛弓, 柏木隆雄と共編, 大手前大学文化交流研究叢書12, 思文閣出版, 3月31日)
- 論文
- ・中村真一郎に甦るネルヴァル 演劇の魔(一)(『中村真一郎手帖11』, 水声社, 4月)
- 坂巻 康司
- 編著
- ・『近代日本とフランス象徴主義』(水声社, 408頁, 2月)
- 論文
- ・マラルメと雑誌メディア(シンポジウム報告「世紀末の文芸誌と作家たち」, 『Nord-Est』第9号, 日本フランス語フランス文学会東北支部, pp. 8-13, 5月)

- 口頭発表
- ・マラルメと雑誌メディアー『ワーグナー評論』を中心に」（関西マラルメ研究会第22回研究発表会，大阪大学，3月18日）
- 高岡 尚子
- 口頭発表
- ・恐怖・嫌悪・欲望とジェンダー（日本フランス語フランス文学会春季大会ワークショップ／コーディネーター，学習院大学，5月29日）
 - ・男装の女性作家ジョルジュ・サンド — その生涯と現代性 —（名古屋外国語大学フランス語学科主催講演会，名古屋外国語大学，6月3日）
 - ・«La nature et l'urbanisation utopique dans le monde romanesque de George Sand»（Colloque «George Sand et les sciences de la Vie et de la Terre», Muséum d'Histoire naturelle de Bourges, 10月22日）
- 高橋 愛
- 論文
- ・ゾラ『愛の一ページ』における感覚の諸相（『社会志林』第63巻第2号，pp. 79-90, 9月）
- 分担翻訳
- ・『大人のためのコミック版世界文学傑作選 下』（いそっぷ社，ラス・キック編・金原瑞人訳，pp. 204-212, 10月）
- 報告
- ・Colloque “Zola et moi...”，および映画 *Cézanne et moi* について（自然主義文学研究会，東北大学，10月22日）
- 武田 裕紀
- 論文
- ・『ポール＝ロワイヤル論理学』とデカルト—「定義」を巡って—（『追手門学院大学基盤教育論集』第三巻，pp. 1-10, 2月）
- 翻訳
- ・『デカルト全書簡集』第四巻（大西智，津崎良典，武田裕紀ほか，知泉書館，2月）
- コラム
- ・（共著）「一般教養の物理における古典的スパイラル授業方法」（『パリテイ』2月号，p. 68）
- 口頭発表
- ・*Invention de la racine cubique des nombres binômes* et le manuscrit de Meibom（Table ronde sur mathématique, physique et métaphysique chez Descartes, 龍谷大学大宮キャンパス，9月13日）
 - ・デカルト『二項数の立方根の考案』とメイボム写本（第20回科学史学会西日本研究大会，京都大学，12月4日）
- 立川 信子
- 論文
- ・19世紀後半から20世紀前半のフランスにおける「現実主義」の変貌：ジッドによるバルザックとゾラの評価を通して（『愛媛大学法文学部論集』人文学科編41, 1-22, 9月）

寺本 成彦

- 論文
- ・寺山修司におけるロートレアモン — 書物からスクリーンへ, スクリンから街へ — (坂巻康司編『近代日本とフランス象徴主義』, 水声社, 2月10日)
 - ・オルフェウス伝説の映画化 — 集団的想像力と個人的想像力による伝承と変移 — (『ヨーロッパ研究』第11号, 3月31日)
- 講演
- ・昌二のことは忘れて、いつでもお嫁に行っておくれ…… — 小津映画の不在の中心としての“次男”について — (せんだい映画村主催『東京物語』上演会での講演, 仙台市民活動サポートセンター, 12月2日)

永瀬 春男

- エッセイ
- ・書物の運命 — 日仏の『パスカル全集』について (『流域』第78号, 青山社, pp. 27-35, 4月)

長谷川 富子

- 講演
- ・ブルースト『失われた時を求めて』 — モードから見る三人のヒロインたち — (大阪府立大学女性学講演会, 大阪府立大学 ISite なんば, 10月8日)

濱田 明

- 論文
- ・«Jiujutsu» de Lafcadio Hearn (*Lafcadio Hearn Studies*, Vol. 3, Society for Lafcadio Hearn Studies, Kumamoto University, pp.29-33, 3月)
- 共訳
- ・『フランス・ルネサンス文学集2 笑いと涙と』(白水社, 2月)
- 口頭発表
- ・ラフカディオ・ハーンのフランス文学講義(富山大学ヘルン(小泉八雲)研究会主催第1回国際シンポジウム, 富山大学, 2月13日)
 - ・ラフカディオ・ハーンとフランス(日本フランス語フランス文学秋季大会ワークショップ, 東北大学, 10月23日)
- 講演
- ・フランスをめぐるハーン(熊本大学文学部市民講座「旅する漱石、旅するハーン」, 熊本大学五高記念館, 1月9日)
 - ・リスボン地震とヴォルテール(熊本大学公開講座「世界の宗教と思想からみる自然災害」, 熊本大学, 12月3日)

林 千宏

- 論文
- ・デュ・ベレー『ローマの古跡』『夢』における隠蔽と解説 (『ロンサル研究』XXIX, p. 49-61, 6月)

春木 仁孝

- 編著
- ・『フランス語学の最前線』第4巻, (ひつじ書房(東郷雄二氏と共同編集), 5月)

- 論文
- ・再び *ça mouille* (*ça* + 動詞) 構文の特性について (『時空と認知の言語学』V, pp. 31-40 (言語文化共同研究プロジェクト2015), 大阪大学大学院言語文化研究科, 5月)
 - ・話し言葉における名詞の機能語化について - *côté, question, façon, genre, style, histoire de, etc.* - (『フランス語学の最前線』第4巻, ひつじ書房 pp. 85-125, 5月)
- 廣田 大地
- 口頭発表
- ・フランス語学習におけるフランス詩の活用方法を考える (第30回関西フランス語教育研究会, 上田安子服飾専門学校 (大阪), 3月25日)
- 書評
- ・「西山教行, 細川英雄, 大木充 (編) (2015) 『異文化間教育とは何かーグローバル人材育成のためにー』, くろしお出版 (Revue Japonaise de Didactique du Français, Volume 11, n° 1 et 2, 2016, pp. 373-375)
- シンポジウム
- ・「フランス文学を次世代へいかに伝えるべきか」司会・コーディネーター (神戸大学 梅田インテリジェントラボラトリ, 12月28日)
- その他
- ・フランス詩によるフランス語学習サイト「ぼえふら」(<http://www.litterature.jp/poefra/>)
- 藤田 義孝
- 論文
- ・サン＝テグジュペリ作品における子どもの喪失 (『西洋文学研究』第36号, 大谷大学西洋文学研究会, pp. 1-23)
- 水田 博子
- 口頭発表
- ・エレヌス・シクスー *Dedans* におけるエクリチュールの実験 (関西学生フランス文学研究会, 京都大学, 9月1日)
- 森 康晃
- 論文
- ・『失われた時を求めて』における「七重奏曲」の機能ーなぜ *les cuivres* でなければならないのかー (*Gallia*, n° 55, pp. 85-94, 3月)
- 山上 浩嗣
- 単著
- ・『パスカル『パンセ』を楽しむー名句案内40章』(講談社学術文庫, 272頁, 11月)
- 共著
- ・『2016年度版 仏検公式ガイドブック1級』(荒木善太監修, 荒木善太・平野隆文・山上浩嗣共著 (山上担当: 第2部, pp. 157-215), 公益財団法人フランス語教育振興協会 (APEF) [発売: 駿河台出版社], 4月)
- 論文
- ・ヴォルテールのパスカル批判 (*Gallia*, N° 55, pp. 25-34, 3月)
- 翻訳
- ・ディドロ『サロン』抄訳 (1) (『大阪大学大学院文学研究科紀要』5巻, pp. 61-98, 3月)

- 書評
- ・ベネディクト・ゴリヨ「現代フランス文学におけるギリシア＝ラテン文学の遺産」(『文学』17巻5号(2016年9,10月号),岩波書店,pp.215-239,9月)
 - ・嶋中博章『太陽王時代のメモワール作者たち—政治・文学・歴史記述』(吉田書店,2014年2月刊)(『西洋史学』257号,日本西洋史学会,pp.74-76,1月)
- 口頭発表
- ・パスカルの「気晴らし」(divertissement)とモンテーニュの「気をそらすこと」(diversion)(「フランス近世の〈知脈〉」第2回研究会,大阪大学豊中キャンパス,7月16日)
 - ・フランス現代小説の楽しみ(平成28年度三丘セミナー,大阪府立三国丘高校,7月19日)
 - ・モンテーニュにおける「気をそらすこと」と「自己を自己からそらさないこと」(関西シェイクスピア研究会例会特別講演,関西学院大学大阪梅田キャンパス,12月4日)
 - ・モンテーニュにおける「気をそらすこと」と「自己を自己からそらさないこと」(十三社会思想研究会,大阪大学豊中キャンパス,12月23日)
- その他
- ・みのおFM番組「まちのラジオ(大阪大学社会学連携事業)」出演,9月8日15:00-16:00[再放送:同日21:00-22:00,9月11日13:00-14:00](フランス文学やパスカル研究について,山上へのインタビュー,<http://fm.minoh.net/blog/?p=8545>)
 - ・エッセー「パスカル『パンセ』の楽しみ」(『本』12月号,講談社,pp.54-55,11月)
 - ・ブックコレクション—教員 VS 学生書評対決(第28回,大阪大学生協・大阪大学総合図書館合同企画,12月,<http://www.osaka-univ.coop/event/book/review/201612/index.html>)
- 山本 健二
- 口頭発表
- ・Paul Verlaine comme poète républicain — Autour des poèmes écrits sous le Second Empire (第78回大阪大学フランス語フランス文学会,3月5日)
 - ・共和主義詩人としてのヴェルレーヌ — 初期作品を中心に(日本フランス語フランス文学会秋季大会,東北大学,10月22日)
- 和田 章男
- 論文
- ・ブルーストにおける写真と記憶 — コンプレアの生成過程におけるイリエー (*Gallia*, N° 55, pp. 95-103, 3月)
 - ・ブルーストとショパン (*Stella*, N° 35, 12月)
- 書評
- ・吉川佳英子『「失われた時を求めて」と女性たち — サロン・芸術・セクシュアリティ』(『cahier』第18号,日本フランス語フランス文学会,pp.27-28,9月)

口頭発表

- ・ブルーストとワーグナー受容（関西ブルースト研究会，京都大学，10月8日）
- ・Proust et la critique wagnérienne（国際学会 «Proust et la critique», 京都大学，12月10日－11日）